



青山 smile 通信



～みんなが笑顔になれる学校づくり～

令和5年9月22日

大津市立青山小学校 生徒指導通信

「はきものそろえ」の先にあるもの

はきものをそろえると心もそろろう 心がそろうとはきものもそろろう

ぬぐときにそろえておくと はくときに心がみだれない

だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう

そうすればきっと 世界中のひとの心もそろうでしょう

この詩は、長野県にある円福寺の藤本幸邦(こうほう)さんが作られました。

ほかにも「足元を照らして顧みよ」という意味の「脚下照顧」(きゃっかしょうこ)という言葉があります。「自分の履物すらそろえられないような人は大きなことを成し得ることはできない。だから、まず履物をそろえることから始めましょう」というメッセージが込められているそうです。

本校でも、この詩は子どもたちが履き物を着脱する靴箱やトイレ付近に掲示しています。また、「脚下照顧」という言葉は、青山中学校でも、生活指導のキーワードとされていることから、小中学校が同じ指導をしていることを意味します。

環境は私たち自身の心を映し出す鏡になります。心が乱れると身の回りが乱れてきます。しかし同時に、環境も私たち自身の心に大きく影響を与えているので、机の上や部屋を片付けると気持ちが整ってきます。たかが履物という考えもあるのかもしれませんが、しかし、自分の身の回りのことを整えたり、気づいて直せたりできる子どもは、気持ちをコントロールでき、自分自身を振り返る習慣が育ちます。

まず、自分の履物をそろえることが大切であり、それができる人は他の人の履物もそろえることができるようになります。「自分を高め、みんなのために行動できる子」という学校教育目標に掲げた目指す子どもの姿に近づくのではないのでしょうか。

ご家庭の玄関の靴やトイレのスリッパはどうでしょうか。家庭と学校が足並みをそろえて、子どもたちを育てていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

はきものは
かかとピタッ

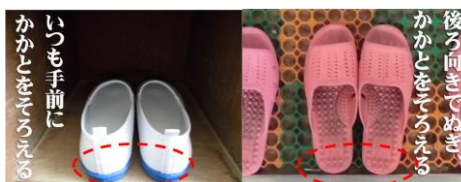
はきものを
そろえると心もそろう

きゃっかしょうこ
脚下照顧

「脚下照顧」すぐにあわてて先に目をやるのではなく、しっかりと足元を見つめ、心をこめていねいに生きることが大切という教えです。



↑低学年用指導資料



↑中学年用指導資料



↑高学年用指導資料